

佳作

おじいちゃんの事故で気づいた事

岡山県
倉敷市立庄小学校 五年

金村 理央

「ブルブルブルブルブル」

真夜中に、とつ然電話が鳴りました。

「だれから？ どうしたん？」

私は、何か大変な事が起きたのかもしれないと、聞いてみました。

「おばあちゃんからよ。おじいちゃんが事故にあつてね、これから、新見の病院へ行くよ。」

とお母さんが言いました。私のむねが、急にぎゅうと痛くなりました。急いで服を着がえると、お父さんの運転する車で、新見へ向かいました。

おじいちゃんは、大好きなつりをするために、日本海へ行くと中だつた事、まだ、どんなけがをしているかわからないという事などを、おばあちゃんが教えてくれました。

私は、もしも、おじいちゃんが死んでしまつたらどうしようと思うと、むねがつぶされてしまいそうでした。そして、「おじいちゃんが無事でいてくれますように。」と心の中でお祈りしながら、おじいちゃんの事を思い出していました。

春には、よく二人で山登りに行く事。頂上で、おじいちゃんと一緒に食べるおにぎりはとてもおいしいです。

それから、色々な野菜を畑で作つて、私たちに届けてくれる事。特に夏には、私が大好きなすいかや、甘いとうもろこしをたくさんくれるので、とても楽しみにしています。

秋には、一緒にさつまいもほりをする事。おじいちゃんの畑の土は、とても固いから、最初におじいちゃんが、大きなスコップで、土をほりおこしてくれました。その後で私が、いもをきずつけないように、ていねいにほり出します。中には、私の顔と同じくらいの物もあつて、本当にびっくりします。他にも、色々な植物の名前を覚えてくれたり、昔話をしてくれるおじいちゃんの事をたくさん思い出している間に、病院へ着きました。

おじいちゃんの顔とうでは、ガーゼがはられ、固まった血がいっぱいついていました。でも、本当に大きな事故だつたけれど、おじいちゃんは無事でした。私のカチカチになっていた体がくじやうと、やわらかくなつていきました。おじいちゃんは、「理央に魚を食べさせたかつたけど、ごめん。」

と言いました。おじいちゃんは、こんなに痛くて、しんどくても、私の事を考えてくれていると思うと、泣きたくなくなりました。

そして、いつも私にしてくれている事も、おじいちゃんが事故にあわなかつたら、当たり前前の事で、気づかなかつたかもしれないません。

おじいちゃん、ありがとう。今度は、畑の草取りや水やりのお手伝いもしようと思います。もつとたくさん会いに行きます。

だから、安心して、早く元気になつてね。